

電波資源拡大のための研究開発 平成19年度終了案件評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
コグニティブ無線通信技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・幾つか重要技術が開発され、多くの成果が得られており、実施体制は妥当であり、予算も効率的であった。 ・一般的には、端末を主役としたコグニティブ無線が目されるが、本案件は、事業者サイドから見た無線ネットワークが主役となっており、極めて興味深く実用性の高いものと思われる。 ・真に早期実用化を図る上では、現状、本案件での視点に立った研究開発が必須であり、その意味で本案件の有益性は極めて高い。 	4.3
空間軸上周波数有効利用技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・順調に研究開発が進められ、実施体制、予算ともに妥当であり、効率的である。 ・特許出願、学会発表が多く評価できる。今後、標準化への貢献が期待される。 ・当初の目標が達成されており、総合的に有益であった。 	4.1
超伝導フィルタ技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとハードルの高いテーマであり、当初の目標はほぼ達成されており、総合的に有益であった。 ・世界初の新規性の高い技術を実現しており、学会論文、発表、特許出願も多数あり、評価できる。 ・本案件では、超伝導フロントエンドについては実用化に道を開き、チューナブル送信フィルタについては世界的にも先鞭を付けることができた。 	3.9
衛星通信と他の通信の共用技術	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・事前設定の目標はほぼ達成されており、有益であると言える。 ・実施体制及び予算については、特に問題ない。 ・国際標準化への提案は行われたものの、知的財産権等への取り組みなど、外部で評価できる成果が少ないので、得られたデータを有効活用できるようにしてほしい。 	3.5
クライストロン送信機デジタル波形成形技術及び固体素子等を用いたレーダー技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の目標は達成されており、これにより、周波数の再編計画が促進されることから、本案件についての有益性は認められる。 ・実施体制等については、効率良く実施され、特に問題はない。 ・低電力の固体化気象レーダーの効果確認もできており、意義は大きい。今後の国際標準化への貢献を期待。 	4.4
マグネトロンのスプリアス低減技術及びレーダーの測定技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産への取組み、ITU-Rをはじめ国際標準化への貢献もあり、また実用化の目途も得られており、評価できる。 ・効率良く研究が進められており、実施体制、予算ともに特に問題ない。 ・電波の効率のかつ有効利用に直接的に関わる案件であり、電波資源拡大のための有益性は極めて高いものであることから、測定装置に関する特許だけでなく、スプリアス低減技術やレーダーそのものに関する提案もすべき。 	4.0
コグニティブ無線端末機の実現に向けた要素技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア、ソフトウェアの試作も成功し、システムに関しても所望の目標を達成している。 ・効率の良い研究が実施され、体制及び予算ともに問題ない。 ・コグニティブ無線技術の進歩は、今後の無線アクセス方式の動向に極めて影響が大きいため、開発された基本技術の進歩を見極める必要がある。 	4.1
高速・高精度測定技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標を大幅に上回る掃引技術を達成しており、国内発の研究開発として評価できる。 ・数年後の実用化の目途が得られており、実施体制、予算とも問題なく実施されている。 ・周波数の高度利用を促進するためにも、技術基準適合証明のグローバル化を円滑に推進するためにも、本案件は必須のものであり、有益性は極めて高く、実用化についての状況を追跡したい。 	3.8
空間分布電力測定技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標はほぼ達成され、得られた成果の有用性が示されている。 ・専門家により効率的に研究が行われ、予算的にも問題ない。 ・不確かさをもう少し低くし、実用化を目指した標準化活動を行うべき。 	3.6